

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 末成 妙子	職名 教授	学位 横浜国立大学大学院 教育学修士(音楽教育学)
----------	-------	------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい児教育(聴覚障がい乳幼児) ・こども音楽療育 ・表現(身体・音楽)

研究課題
<p>「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据えて音楽の実践力をつける方法を研究する。障がいのある子ども、そうでない子ども、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021年7月に出版した『幼児期の表現活動』の執筆活動を通して、自身の講義の振り返りを十分行うことができた。</p> <p>また、2022年1月に出版した『障がいのある子どもの保育・教育の実践』は、編者として本編全体を見通すことに携わったことにより、障害児保育について、それぞれの専門分野の方々と意見を交わすことができた。</p>

担当授業科目
保育内容「表現(身体・音楽表現)」(前期) 子どものためのピアノⅠ(前期) 子どものためのピアノⅡ(後期) 子どものうたと伴奏法(後期) 子どもと表現(後期) こども音楽療育概論(後期) こども音楽療育演習(前期) こども音楽療育実習(後期) 子ども学基礎演習(通年) 子ども学特別演習(通年) 子どものうたあそび(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【子ども学基礎演習】</p> <p>学部全体で年間の流れを決めているので、その流れを尊重したうえで充実した活動ができた。末成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったので、12月に本学マロリーホールで開催された市民カレッジに出演し、学生はミュージックパネル「森のクリスマス」を披露し、歌やピアノ演奏、演劇に取り組んだ。満足のいく出来栄であったという感想を述べてくれていた。音楽があまり得意でない学生も笑顔で参加し、シアターを演じたり、クリスマスにちなんだダンスを披露したりすることができた。「お話し発表会」では、学生が自主的に準備して臨んだ。キリスト教教育を根幹に据える本校の姿勢を、ゼミ活動を通して伝えることができたと考えている。</p>
<p>授業科目名【子ども学特別演習】</p> <p>1年生のゼミ生と共に、12月に本学マロリーホールで開催された市民カレッジに参加して、音楽を披露した。ハンドベルではゼミの中でも力の差があったが、苦手な学生に、得意な学生が的確なアドバイスや心優しい援助をして、皆で音楽を作り上げて、その過程は大変こころ温まるものであった。</p> <p>1年生のゼミに絵本士資格の講座が含まれているので、なかなか1・2年生合同の活動時間がとりにくかったが、学科の方針でこれからその点は改善されていくと考えている。</p>

授業科目名【保育内容「表現（身体・音楽表現）」】

「表現する喜びを味わい、幼児の表現の力を育む」を本科目の目標に設定し授業を構成した。昨年度上梓した「幼児の音楽表現」の著書をテキストにして、音楽を使って、様々な工夫をこらした表現を披露し合い、お互いの良い点を見つけ合い、子どもにとっていかに「表現する」ことが大切であるかを学んだ。「表現を促す環境」という視点からも考察して、保育環境へも配慮した表現の在り方を学び合うことができた。

授業科目名【こども音楽療育実習】

半期の授業であるにもかかわらず、3回の「療育的音あそび公演」を行った。第1回目はリモートで市内の3園とつなげて、音楽クイズ、演奏、身体表現と変化に富んだ企画をまとめ、双方向とのやり取りのできる環境を十分に生かして行った。ウィルスの感染が収まらず、リモートで触れ合う企画は回を追うごとに内容が充実してくるのを実感した。2回目の公演は「おんがくDEあそぼう」という企画でウエル戸畑において、親子の音楽活動を行った。感染対策という点から、金管楽器・木管楽器の使用は控え、密を避け、検温を行い、使用した机や椅子の消毒まで含めて、綿密な準備の下で行った。3回目のリモートは、「白雪姫」を題材に音楽あそびを企画した。地域連携の企画ということもあり、予算をいただくことができたおかげで、外部のホールを使用することも可能になり、西南女学院の保育科を地域にアピールすることができたと思う。子どもとのやり取りを通して、子どもの反応を肌で感じて療育的活動を行うことができた。学生全員が3つの企画に参加するというとてもハードな授業になったが、皆で協働し充実した療育活動ができたと考える。

授業科目名【子どもと表現】

保育所保育指針、幼稚園教育要領などを吟味し読み込んだのち、紙芝居を作ることを最終発表の課題として、色塗りワーク、折り紙ワーク、劇の効果音に関するワーク、絵本「ぼんたのじどうはんばいき」を題材に販売機から出てきてほしいものを手作りし、セリフを考え演技することなど、演習を織り込んだ展開をした。8回という限られた回数回の授業ではあったが、毎回大変積極的な意見や取り組みがあり、学生どうしが刺激し合えるよい流れを作ることができた。

授業科目名【こども音楽療育演習】

障がいについて考えるとき、発達障害に注目が集まりがちであるが、肢体、知的、視覚、聴覚、病弱の5障害、について理解を深め、そうした子どもたちとかわかるときに音楽はどのような力があるか、どのように音楽を使って子どもたちとコミュニケーションできるか、子ども達が生きやすくなるかを考えながら授業を進めた。将来、実際の保育の現場で行うことができる療育的音楽活動をめざし、音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。さらに障害のある子にとって、大きな壁ともいえる言葉の領域についても理解を深め、また、各々の子どもに応じた配慮について考え、実際の楽曲を使って、楽器の効果的な使い方を実演した。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことで音楽の世界が広がることを実感できることをめざした。

授業科目名【子どものうたあそび】

授業で歌ったうた、工夫した音楽活動を必ずノートに残し、子どもの歌にできるだけ親しむように、講義の中で促した。コロナ禍でも保育園・幼稚園では音楽を使った活動があるので、音楽を使って手や指先、からだを動かして遊ぶことを身に付けてほしいと考えている。音楽を通した活動は人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つ。限られた講義時間の中で、わらべうたから最近のうたまでの広い領域からどの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。互いに励ましあったりして伴奏に積極的に取り組んだり、個性のある遊び方を披露してくれたり、保育科らしい発展的な授業になった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞った学びも有効だったと考える。

授業科目名【こども音楽療育概論】

編者となって未成がまとめた「障がいのある子どもの保育・教育の実践」をテキストに、具体的なエピソードを多く取り入れ、聾学校、総合支援学校での体験を交え、講義を進めた。特に聴覚障害については生活するうえの様々な不自由さを理解し、事例を示しながらその支援の方法を学んだ。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持っているの、ノートをよく取り、緊張感を持って授業に臨んでいた。発達障がいがかろうズアップされているが、5障がい全般について理解を深めるように、様々な障がいの実態を知り、重度・重複化する子どもの障がいを理解するように指導した。

<p>授業科目【子どものためのピアノⅠ・Ⅱ】</p> <p>教育芸術社の「大学生のためのピアノ教本」をテキストに用いて個人レッスンの形態で行った。本年度は半数近い学生がピアノの初心者で、1年間をかけてもバイエル100番まで進むことができない学生が例年より多く、不安を覚えた。この科目の目標曲の設定、課題の出し方、目標とするピアノ演奏の到達点について、今一度考えるべき時に来ているように思われる。他の保育士養成校の取り組みを参考にして、現実的な改編が望まれていると考えるが、それにはカリキュラムの改正が必要である。楽器の習得は辛抱のいることで、免許取得のものへの意欲が衰退することがないように、さまざまな相談、練習方法の悩みなどが気軽に話し合える雰囲気を作り、学生どうしが互いに良い刺激を受け合って進めることができるように心掛けたい。</p>
<p>授業科目【子どものうたと伴奏法】</p> <p>実習の場面で使う曲の練習ができ、さらに高度なピアノ曲をおさらいすることができる科目であるにもかかわらず、学生の意欲が期待ほど伸びず、今後に課題を残す科目のありかただと感じた。試験の課題曲について再考し、ピアノの技術の習得を本学で学ぶことができる貴重な時間なので、実際的なコード進行、簡易伴奏、子どもの実態に合った即興的なアレンジなど学べるように工夫していくことが望まれると考える。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011年～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
障がいのある子どもの保育・教育の実践	共著・(編者)	2022年2月	学友社(203頁)	3人の編者の一人としてこの本を上梓した。項目立てから著者の選考、校正、索引立てまで行った。保育士幼稚園教諭を目指す学生がインクルーシブ保育を展開する力をつけるための大学生向けテキストである。事例、イラストを多く用いて保育実践に結び付きやすい内容になっている。
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 「コロナ禍におけるリモートでの音楽療育実践の可能性」	単独	2023年3月26日(予定)	日本音楽教育学会 中国・四国大会 於：岡山大学	音楽養育実習で行った、リモートで市内の保育園・幼稚園をつないでの療育的音楽あそびについて発表した。どのような利点、影響、があり、今後の課題はどのようなことかなどを検証した。

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

なし			
----	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会 副委員長 公開講座委員会 委員長 図書委員会 副委員長 西南女学院大学・短期大学部評議員（2020年4月1日～2023年3月31日） 北九州市立幼稚園連盟第1ブロック教職員研修会 講師 「すぐ実践できる楽しいリズムあそび・合奏」 (11月16日) 地域連携活動において北九州市民カレッジ講師（12月8日） 地域貢献活動<子ども・子育て支援と学校教育>の分野で「音楽DEあそぼう」というイベントを開催 (2023年1月14日)

以上